

2024年11月2日～6日
長野県北部震災被災地(栄村)における
文化財保全活動(第91回)報告

[2025年1月15日版]



鈴木努さんを講師に古文書講座が開催された

地域史料保全有志の会

==== 目 次 =====

はじめに	2
1. 第91回活動の基本データ	2
■日 程	
■参加者	
■活動内容	
2. 文献班の活動内容	3
■廣瀬博明家文書の整理	
■旧保育園保管庫から廣瀬家文書の一部をこらっせに移動	
■廣瀬博明家資料の返却前記録	
■古文書解読講座の開催	
■白鳥村史料のコピー	
3. 民具班の活動内容(文・写真：石野律子)	5
■11月4日	
■11月5日	
【今後の課題】	
4. 今回の自炊ーワンコイン昼食！	7
5. 会計報告(大澤佳寿子・白水智)	8

はじめに

11月初旬は毎年紅葉のシーズンで、秋山では盛りを過ぎているものの、栄村歴史文化館「こらっせ」の周辺など見頃を迎える時期である。が、異常に暑く長引いた猛暑のせい、今年はまだ秋山も比較的紅葉が残っていた。ただ、色づきはあまり良くなく、地元の皆さんも例年より色がくすんでいると話していた。そのような紅葉の中、恒例の11月の活動を行った。今回は文献班と民具班が活動を行い、それぞれ地味ではあるが手応えのある成果を残すことができた。



秋山郷鳥甲山の紅葉

今年は3年に一度新潟県十日町・津南町を会場に開催される「妻有トリエンナーレ 大地の芸術祭」の開催年に当たり、秋山郷の大赤沢地区でも、閉校した旧大赤沢小学校を会場とする「アケヤマ」と題する展示が行われていたが、文献班の白水が11月2日にその「アケヤマ」で山村生活に関わるトークセッションをすることになっており、活動期間中の同日はその見学も盛り込んだ活動となった。以下、詳細について報告していく。

1. 第91回活動の基本データ

■日程：2024年11月2日(土)～6日(水)の5日間

■参加者：白水 智・鈴木 努・杉浦亜門・藤田明良・石野律子・常田一彦・半戸帆南・松本由佳・高野宏峰・水落建哉

★栄村から：上倉久佳・広瀬幸利・阿部佑哉・鈴木剛・鈴木早苗・関澤睦美・飯嶋広恵

【差し入れ等】阿部佑哉・杉浦亜門・石野律子・松本由佳・鈴木剛・松本由佳・吉楽旅館ほか

■活動内容：

[11月2日(土)]

午前：栄村歴史文化館「こらっせ」にて文献班の史料整理の準備をしてから、トークセッションのため津南町大赤沢に移動。

午後：大赤沢にて大地の芸術祭拠点の1つ「アケヤマ」にて白水がトークセッションを行う。

※民宿出口屋泊

[11月3日(日)]

午前：秋山の紅葉と青倉地区にある雪崩遭難碑を見学

午後：文献班は廣瀬博明家文書の目録作成

※吉楽旅館泊

[11月4日(月)]

午前：文献班は廣瀬博明家文書の目録作成

民具班はこらっせ茶の間にて廣瀬美幸さんから手漉き和紙の聞き取り調査

午後：こらっせ2階で鈴木努さんによる古文書講座を開催し、文献班・民具班も参加

文献班は廣瀬博明氏に返却予定の古銭・暦・切手の確認

[11月5日(火)]

午前：文献班は廣瀬博明家文書の目録作成



雪崩殉難碑

民具班はこらっせにて手漉き和紙調査の情報交換

午後：文献班は、旧保育園の文化財保管場所で廣瀬博明家の土蔵前室文書の一部を見つけ、こらっせに運搬して、埃の酷いものなどをクリーニング。また、廣瀬博明家文書の目録作成と同氏に返却予定の古銭・暦・切手の撮影

民具班は、民具収蔵庫から札を付けていない衣類(佐藤家資料)をこらっせへ移動

[11月6日(水)]

午前：文献班は今回の目録採り用紙をスキャンして整理。また、上倉久佳こらっせ館長から提供された白鳥地区某家の古文書コピーをスキャンしてデータ化

2. 文献班の活動内容

■廣瀬博明家文書の整理

今回も同家文書の目録作成と整理を継続して行った。整理した史料は以下のとおりである。

廣瀬博明家文書(目録採り)

○土蔵前室カ-11-21～30(途中)

カ-12-57～70(途中)

カ-13-1止(終了)

カ-15-1～3(途中)

カ-16-1止(終了)

カ-17-1～16(途中) ※カ-17-38止まで短冊挿入済み

■旧保育園保管庫から廣瀬家文書の一部をこらっせに移動

11月5日の昼過ぎ、民具班の手伝いで旧保育園の保管庫に入ったところ、2階の一室で、現在整理に取り組んでいる廣瀬博明家の前室旧蔵の古文書が一部残されているのを発見した。現在の作業と一体で整理を進めた方がいいので、これをこらっせに移動した。また、これまで所在不明となっていた廣瀬家文書の一部が旧保育園の方にあるらしいこともわかった。今後、改めて確認作業を行っていきたいと考えている。



■廣瀬博明家資料の返却前記録

同家資料のうち、一部のものについてご当主から自宅に持ち帰りたいとのご希望があったため、お渡しする前に記録を取っておく必要があり、現状の確認と写真撮影を実施した。返却分は以下のとおりである。

○土蔵 2 階エ- i -②-8 … 郵便切手

同 エ- i -④ … 古銭(丁銀・豆板銀・一分銀等)

同 カ- f -① … 古銭(さし銭)

同 ハ- b -1 … 永和元年暦



■古文書解読講座の開催

期間中の11月4日、こらっせ2階を会場に、村民等一般向けの古文書講座を実施した(表紙写真)。長野県の助成金である「元気づくり支援金」を受託しての活動で、講師は中央大学山村研究会の会員で、栄村の『公民館報』で古文書についての連載を続けている鈴木努さん(愛称：ど先生)が務めた。

講座では、江戸時代の飢饉の際に非常食として紹介された「蕁もち」を題材に取り上げた。本来は天明の飢饉に際して幕府から凶作に喘ぐ関東の村々へ達せられた非常食の指示だったが、それが信州の村々へも伝達され、栄村の地域には中野役所(現在の長野県中野市)から通知されたものであった。それが廣瀬博明家文書の中に残されていたのである(同家文書土蔵2階チ-a-4-31 卯十月八日「蕁餅仕候様」)。

今回は、この史料を基本としながら、当時の飢饉や救荒食の事情についても広く解説し、また、蕁餅を食べたあと体調を崩して死去する者が多くいたことも紹介された。さらに、明治から昭和に入っても蕁餅が各地で非常時に食されることがあり、それがより体調の悪化をもたらした史料なども紹介された。

ど先生の解説はたいへんわかりやすく、古文書を読んだことのない参加者も興味津々でその話に聞き入っていた。こらっせ2階に残されているかつての東部小学校志久見分校の教室と黒板・机や椅子をそのまま利用した現場での講義だったこともあり、学び舎での楽しい授業が再現された趣があった。参加者が少なかったのが残念であったが、参加された皆さんには大いに好評で、今後ともこうした講座の継続的な開催の必要性を感じた。



■白鳥村史料のコピー

こらっせ館長の上倉久佳さんから、以前村内白鳥地区の旧家の方から借りてコピー(電子複写)したという古文書を見せていただいた。上倉さんがかつて教育委員会の職員だった時代に入手したもので、何十年か以前なので、どのお宅のものかも不明ということであったが、現在は原本が失われている可能性もあるため、貴重な史料である。このコピーについてはスキャンしてデータとして保存した。



3. 民具班の活動内容(文・写真：石野律子)

7月に行った活動の後、上倉久佳公民館長から「家の中を片付けていたらこんなものが出てきたよ」と小学生が書いた手漉き和紙の実習ノートを手渡された。それは館長のご子息昇悟さんが栄小学校6年生の時に卒業証書を作るために体験した実習記録で、表紙には「卒業証書作りの記録」とあった。開いてみると12月1日こうぞ狩りから始まり、こうそ煮、表皮かき、こうぞ皮煮、雪さらしと続き、最後は翌年2月23日紙すきで終わっていた。毎回作業工程名に加え、実習した日にち、用意する物、手順とそのポイントや注意事項、ある時は簡単な図で説明も加えながら、最後は感想までを2ページにととても分かりやすく丁寧にまとめられていた。さらに当時の担任が撮影されたと思われる作業写真もカラーで貼り付けてあった。

この実習記録を読み終わった時、技術を子どもたちに伝える講師の和紙職人や担任の先生の熱意、そして子どもたちの頑張りが伝わってきた。と同時にこれは小学生が書いて残したものとはいえ「栄村にとっては貴重で立派な民俗資料となる!」と確信した。実はこの実習で当時講師されていた方が、私たちが前回活動で聞き取りした美幸さんのご主人進さんで、栄村で最後まで手漉き和紙職人をされていた方であったのである。

早速、前回美幸さんから聞き取りした内容と小学生の「卒業証書作りの記録」の工程と内容が比較できるように一覧にまとめてみた。そうすると不明な点や疑問があらたに見えてきたのである。11月の活動では、それらを踏まえ前回の聞き取り内容を再確認し、手漉き和紙の工程や道具を明らかにしていこうと思い、聞き取りを企画したのであった。



小学6年生の「卒業証書作りの記録」(上倉久佳館長寄贈)

■11月4日

前回に引き続き、こらっせにて廣瀬美幸さん(横倉、S16生)から手漉き和紙の工程の聞き取りを行った。前回美幸さんから教えて頂いた工程内容と館長から寄贈された「卒業証書作りの記録」内容を比較できるようにあらかじめ Excel 表でまとめた資料を参加者に配布し、それを見ながら不明な点や疑問を挙げて確認した。あらたに前回抜け落ちていた工程に使用する道具なども明らかになった。

また飯山市で行われている手漉き和紙の工程写真を常田さんが持って来て下さり、それらも参考にしながら、中学生で参加してくれた参加者も大人に混じって一緒に聞き取り調査を行った。なお詳細内容や成果は毎年恒例となった3月の活動報告会で報告の予定である。



前回聞いた手漉き和紙の工程を再度確認する



当時作っていた和紙小物を見せて下さった



廣瀬美幸さんが話される脇で、その内容をiPadでメモをとったり、飯山市の手漉き和紙の工程写真(常田一彦さん提供)を見せて手伝ってくれたりして、中学生は頼もしい参加者である



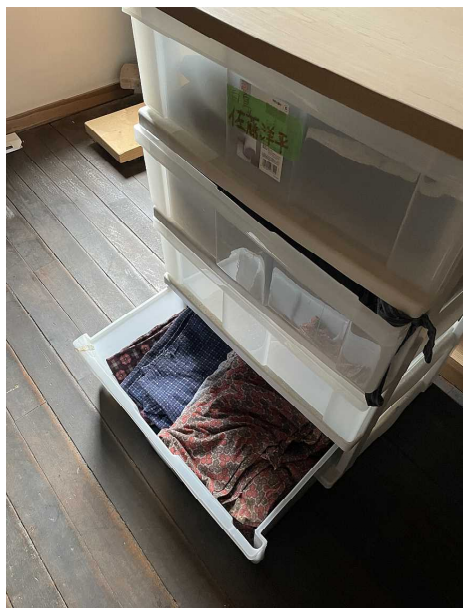
■11月5日

2日目は平日でもあったので、参加者は2人だけとなった。2012年に調査した手漉き和紙の家の模型をどうするかを話し合った。

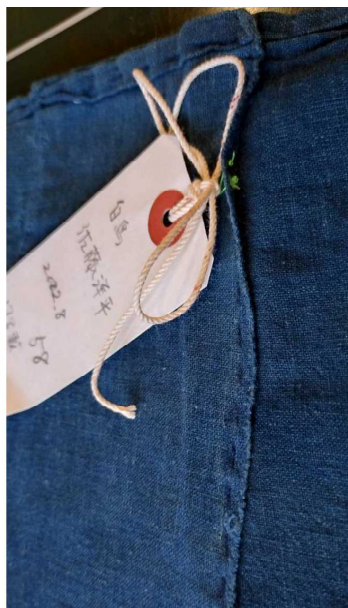
またこらっせのお当番であった関澤さんの手を借りて、ここ数年でやり残していた作業を行った。

そのひとつで2021年度に受け入れた白鳥の佐藤家の衣類資料の札付けを行った。登録番号は付与されているが資料そのものに札が付いていなかったため、一部の衣類に縫って札付けを行った。

また前回7月の活動後に運び込まれた和紙の圧搾機に使用するジャッキが上倉章夫家から寄贈されていたので、7月報告書の追加情報として、ここに紹介しておく。



佐藤家の衣類資料の札付け



上倉章夫さんから寄贈されたジャッキ

【今後の課題】

活動も13年経過し、こらっせ開館後も村民からの寄贈や寄託資料があれば一部受け入れてきた。しかし受け入れ後の民具の一覧表作成がリーダーの私ひとりでは追い付かないのが現状である。ご厚意で寄贈してくださったのに、寄贈資料一覧をお渡しするのを待っていていて、大変申し訳ない。今年度も手漉き和紙関連の資料の寄贈を受け、それらはこらっせ2階の民具収蔵室で保管している。9月にも寄贈資料があり、それらは旧東部小学校の体育館の地下入って直ぐ左手の一室に全て運び込まれた。

今後の課題としては手漉き和紙の調査と並行して、新たに寄贈された民具の札付けと分類整理調査、写真撮影、一覧表作成作業が必要となる。それにはかなりの人手と時間を要するので、来年度は何か対策を考えなくてはならない。

4. 今回のランチーワンコイン昼食！

今回は11月4日に長瀬地区にオープンしていたピザ屋さんで昼食をとりに行ったが、それ以外はいつものようにワンコイン(100円)昼食を実施した。その際、教育委員会生涯学習係の阿部さんがお米をはじめ、おでんや餅などたくさんの差し入れをしてくださったので、とても充実した食事になった。ありがとうございました！



5. 会計報告(大澤佳寿子・白水智)

今回の会計は、前回の分に引き続いて、10月1日～12月末日までの分を掲載する。

[2024年10月1日～12月31日までの支出]

＜宿泊・厚生関係＞

○宿泊費補助（3名・5泊分）15,000円

○入浴券（回数券1綴）6,000円

計 21,000円

[2024年10月1日～12月31日までの収入]

○なし 0円

計 0円

[残 額] 1,405,359円

本報告書中、とくに執筆者の記載がない部分や撮影者注記のない写真は、白水が担当・提供した。